

## 留学によって増えた引き出し

私は2018年9月から1年間、ドイツのヴュルツブルク音楽大学で派遣交換留学生として勉強させていただきました。ヴュルツブルクはドイツのバイエルン地方の西側にあり、ロマンティック街道の北の起点である美しい街です。大きな街ではありませんが、美しいレンガの旧市街には世界遺産であるレジデンツや大聖堂、丘の上にはマリエンブルク要塞があり、それらはすべて歩いていくことができます。観光客も多く訪れ、ドイツの中でも特に治安の良い住みやすい街でした。街にはテアター所属のオーケストラがあり、演奏会は常に多くのお客さんでいっぱいでした。大きな教会もたくさんあり、様々なところで頻繁に演奏会が行われています。以上のことから、歴史や美しい街並みを大切に、音楽に関心を持つ人が多いところであることがわかるでしょう。

ヴュルツブルク音楽大学は歴史のある大学で、クラシックからジャズまで様々な専攻があります。私はモダンヴァイオリン専攻なので、ソロのレッスンや室内楽、オーケストラやオペラを学ぶことができました。また、副科としてバロックヴァイオリンを学ぶこともできました。

まずモダンヴァイオリンは、ソリストとして世界中で活躍している中国人の若い女性のTianwa yang先生のもとで学ぶことができました。ドイツの教授職にアジア人で若い女性の方が就くというのはとてもすごいことです。普段は優しくチャーミングですが、レッスン中は厳しく、とても細かいところまで教えてくださいました。前期は特に、レッスンで言われたことを1週間で消化するのに精一杯で、毎日毎日ものがきながら練習していたように思います。後期は少し成長することができ、先生に言われることのバリエーションも増え、より多くのことを教えていただくことができました。特に右手のテクニックについてたくさん教えていただき、1年間で大きく変化することができました。

室内楽は1年を通して2つのグループと勉強しました。ピアノ五重奏とピアノとヴァイオリンのデュオです。ピアノ五重奏では韓国人2人、中国人、オーストラリア人と私の5人、デュオは韓国人のピアニストと学びました。全員ドイツ語が母国語でないメンバーですが、自分が感じたことやこうしたいと思っていることをドイツ語でメンバーに伝え、意見交換をして、より良い演奏を目指すというプロセスはとても充実したものでした。最初はなかなかドイツ語で意見を伝えることができませんでしたが、ゆっくり待ってくれたり言い換

えてくれたり、優しいメンバーに囲まれて段々と自分の意見を伝えられるようになりました。メンバーとおしゃべりができるようになった時は本当に嬉しかったです。

バロックヴァイオリンは私がずっと学んでみたいと思っていた楽器です。古楽科もある大学でしたので、レッスンを受けるだけでなくオーケストラやオペラ、アンサンブルの演奏会に出させてもらうことができました。そこで、モダンにはない音の響きや、音色の作り方、音の紡ぎ方を学び、自身の音楽にとって非常に重要な経験をすることができました。また、古楽科や古楽アンサンブルグループはモダン科に比べてドイツ人が多く、ドイツ人と多く関わることができる貴重な場でもありました。

以上のように、1年という短い期間の学生生活でしたが、非常に充実し、有意義な時間を過ごすことができました。先生から得るものだけでなく、学生同士の音楽的な関わりや他愛もない交流からとても多くのことを得ることができ、音楽を共に学ぶ仲間の重要性をより強く実感しました。

最後に日常生活や音楽以外のことから得たものを記したいと思います。

この1年で色々な街や国に行くことができました。それぞれの地域では演奏会を聴いたり、美術館や博物館を観たり、地域の食文化など多くの物事に触れることができました。これらに触れたことで、自身の感受性の引き出しが増えて豊かになったと思います。その結果新しいものに出会ったときに感じられることが多くなり、作品の良さをより感じるができるようになりました。様々な物事に触れて強く感じたことは、全ての地域で異なる特色があることです。地域によって街並みや風景が全く異なり、音楽もオーケストラによって違う音色や演奏をしているのです。これは、伝統や文化を絶やさないようにした人々の成果であると思います。木造建築で地震の多い日本と異なり、古い石造りの建造物がたくさん残っているヨーロッパは、古い建築物を壊すことや景観を損ねることが禁止されている地域が多くあります。一方で近代的な建物が多く立ち並ぶ街もあつたり、新しい解釈での演奏や現代演出のオペラが多く公演されていたりと、古き良き伝統は残しつつ新しい文化を拓いてゆき、絶やさないようにするという考え方のもとで人々が生活しているのだと思いました。

生活について、ドイツでの生活は自分に合っていると感じました。周りの目を過剰に気にせず、自分がどうしたいかが大前提にある心持ちであつたり、周りで起きたことにそれほど動じない様子というのは、生活していて心地よかったです。例えば服装ですが、夏はお年寄りから子供までみんなタンクトップにサンダルといった服装で歩いています。もちろんTPOに応じた装いや行動はします。最初こそ驚きましたが、こんな服装で外に出ても良いだろうかといった悩みを抱かずに生活できるのはとても楽でした。不必要にずっと気を使わなくても良い環境では、自分がやりたいことを表に出すことができます。自分の意見を持っていない場合は、何もすることができないだけでなく、何も考えていない人であると思われるかもしれません。どうしても日本では自分の意見を主張することよりも、誰かの意見に反対せず従ったり、言わんとすることを察させる方が楽だし美德であるとされる場面がありま

す。しかし、自分の意見をしっかり持ってそれを伝えることは非常に重要で、他者と意見を出し合い、交流し、議論することでより良い結論を出すことができます。留学を経て、これらのことを強く実感するようになりました。

これから留学する学生の皆さんには、ぜひ自分の許容範囲を広げて欲しいです。留学をするということは、今まで知らなかった、触れたことのなかった文化と出会うことであると思います。もしその時にこれまで自分が経験してきた、思っていたことの枠から外れて考えることができなかつたら。せっかく留学で得ることができたはずだったものに気づかずに終わってしまうかもしれないからです。カルチャーショックという言葉がありますが、カルチャーショックを受けた時にどうするかが留学においてとても大事なことであると思います。否定し拒否してしまうのか、驚きつつ受け入れ、異なる文化があると理解するのか。せっかく海外で勉強できる機会なのですから、日本ではできない経験や触れることのできない文化に接し、多くのことを感じて欲しいです。